

「グローバル教育」充実へ 公益大と酒田東高 高大連携を強化



協定書・覚書を交わす神田学長(左)と大山校長

いずれも酒田市の東北公益文科大学(神田直弥学長)と酒田東高校(大山慎一校長)は15日、2015年に締結した高大連携に関する協定について文言を一部修正した上で更新、新たに連携に関する覚書を交わした。国際的な視点を持って地域社会に貢献する取り組みを示す「グローバル教育」の充実に向け、交流と連携をさらに強化していく。

公益大と酒東高は15年12月、公益大は▽課題研究を中心とした教育課程の研究開発・実践に対する助言▽グループワークやディスカッションなどを実施する際の教員派遣などで酒東高を支援。酒東高は、公益大が実施する公開講座や国際交流イベントなどへの生徒派遣などで協力する、といった項目を盛り込んだ協定を締結。酒東高の課題研究

発表会の際に神田学長はじめ公益大教員がアドバイスを送ったり、公益大主催の各種セミナーに生徒が参加するなど連携を深めている。今回の協定更新・覚書締結では、連携しグローバル教育を推進することで酒田、庄内地域の持続可能な発展に貢献するとともに、酒東高が21年度から5カ年、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール(SS

H)」の指定を受けたことから、公益大はSSHを含め酒東高の教育活動を支援することにした。生徒たちが公益大の科目を聴講し単位を取得した場合、入学後に認定するなど高大連携プログラムの開発に向けた取り組みも共に行う。

この日は公益大内で締結式が行われ、神田学長と大山校長が協定書・覚書に署名し交わした。神田学長は「人口減少、新型コロナウイルス感染症、気候変動、エネルギー問題など昨今の社会情勢に合わせた更新。連携を密にして優れた人材の育成に取り組みたい」、大山校長は「探究科の新設、SSHの指定など大きな変化があり、カリキュラムも再編されたことから内容を現状・ニーズに合致したものにしたい。この連携には大きな社会的意義がある。互いに教育の質向上・活性化を実現したい」とそれぞれあいさつした。

庄内日報(令和5年2月19日 日曜日)より転載